

ある若手・女性研究者の現状について

愛媛大学上級研究員センター

(愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター関連)

上級研究員 土屋 旬(つちや じゅん)

Outline

1. 自己紹介
2. 子供をもつ意思のある女性研究者のキャリアパス
3. これまでに困難を感じたこと
4. 解決策
5. 提案等

略歴紹介：

若手研究者のサポートシステムをフルに享受

- **日本学術振興会特別研究員** (DC・PD・RPD) に採用＝自分で研究の場を選択できる
 - DC 博士課程在学中
 - PD 博士号取得後 (任期の半分を海外で)
 - RPD **出産・育児による研究中断後の復帰のための支援**を受けた。
- **上級研究員** (特任講師) (**テニュアトラック制度**)

子供を持つ意志のある女性研究者の キャリアパス

研究が面白く、続けていきたいが、普通に家庭をもち、子育てもしたい。

- 博士課程修了(～27歳)後**キャリア形成**と**出産・子育て**との両方に直面する。
 - **就職は若手が有利**(<35歳)
 - **高齢出産**(>35歳)
- 日本学術振興会特別研究員RPD
- 研究員の採用年齢条件(35歳以下)の削除の動き
- 一度長期休職してしまうと復帰が困難であるので、なるべく子育てしながら働ける環境が望ましい。

子育てとの両立で困難を感じること

- 就職の際、夫婦別居の選択を迫られる。
- 一度休職すると復帰が非常に大変。即戦力が求められる。
- 学会発表・出張のハードルが高い
 - 国内出張
 - 学会が用意した託児室の利用・出張先の保育園の一時保育を利用
 - 旅費負担
 - 海外出張
 - 託児室の利用が難しい(言葉の問題など)
 - 旅費負担(e.g. 飛行機子供運賃=大人正規料金の半額~大人割引運賃)
- 休日出勤(試験監督等)の際、保育園が利用できない。
- 小学生以上は学童保育施設が必要。(地方ではあまり普及していないようである)

(一方で、日常ではそれほど研究・教育と育児の両立に困難を感じない。)

これまでに採った解決策

- **国内出張**

- いくつかの国内学会は託児所を用意してくれている。
- 学会参加者のための託児所がない場合は出張先の保育園の一時保育を利用。

- **海外出張**

- 祖父母をベビーシッターに。
- 現地の日本人留学生をベビーシッターとして雇う（現地大学の日本人留学生コミュニティーに宣伝）。
- 現地の託児所も短時間ならO.K.

いずれにしてもすべて自己負担。

- 休日保育と学童保育については今のところ解決策なし。

提案等

子育て中の研究者間でのネットワークが希薄なため、情報共有の場

大学内の保育・学童保育施設

責任ある仕事をしたいと思う一方で、子育てには予測できないこともあり、仕事を引き受けるべきかジレンマがある。安心して仕事が引き受けられるサポート体制があればと願う。

超人的努力をしなくても研究ができる環境でないとなかなか女性研究者は増えない。子供 > 研究。